

令和8年4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和8年4月3日（金）午前11時00分～11時30分
場所 市役所2階 第3委員会室
出席 市政記者クラブ9社 16名

会見内容

1. 話題提供（1項目）

（はじめに）新年度のあいさつ

- 令和8年度、最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 先般閉会いたしました2月定例市議会において、令和8年度各会計予算案について、議決をいただきました。
- 人件費・物価が高騰する厳しい財政状況の中にあっても、地域経済をしっかりと守り抜くことを基本とし、事務事業の見直しを進めながら、目指すべきまちづくりに向けた施策展開を推進してまいります。
- 去る4月1日から、市独自の宿泊税を導入いたしました。この税収を有効に活用し、市街地や阿寒湖温泉地区など、それぞれの地域の特性を生かした観光施策を強化してまいります。
- また、今年度より、次期釧路市まちづくり基本構想の策定に着手いたします。令和10年度からの新たなまちづくりの指針となるものであり、市民の皆様のご意見をいただきながら、丁寧に進めてまいります。
- 今年度も、経済活性化や人材育成、子育て、都市機能向上につながる施策に重点を置くとともに、政策の柱である「笑顔倍増計画」「世界展開戦略」「未来の人づくり」「行財政運営」にかかる取り組みを着実に進め、市民の皆様が笑顔で安心して暮らせるまちづくりに邁進してまいります。
- 皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、年度当初の挨拶とさせていただきます。

1 物価高騰対策消費者支援事業（電子クーポン）について

- はじめに、「物価高騰対策消費者支援事業」いわゆる電子クーポンにつきまして、ご説明いたします。
- 市民の皆様に向けた物価高騰対策につきましては、まずは、支援の効果が幅広く、迅速に支援が行き届く「水道基本料金の免除」等を令和7年度に実施し、令和8年度においては、市内の登録店舗で使用できる一人一万円分の電子クーポンを世帯ごとに配付することにより、支援の効果を継続させるとともに、消費を通じた市内事業者への支援につなげ、地域経済の活性化を図る考えで進めております。
- 電子クーポンにつきましては、申請等の手続は不要となっており、6月中に各世帯へ通知を郵送いたします。郵送物には、利用方法などのご案内とあわせて、QRコードが印刷されており、そのまま登録店舗に提示し、店舗側が読み込むことで決済が完了しますので、スマートフォンなどをお持ちでなくても利用が可能です。
- 加えて、このQRコードをスマートフォンに読み込み、チャージすることができる専用アプリも用意いたします。アプリを利用することで、印刷物を持ち歩く必要がなく、残高を確認することができるのと同時に、登録店舗検索も行えるものとなります。
- 詳細は現在調整中のため、お知らせできる内容から順次、ホームページに掲載いたしま

す。また、5月末に配布する広報くしろ6月号にて、使用方法や通知の郵送日程、登録店舗情報など詳細をお知らせします。

- なお、登録店舗の募集については、対象を小売店、飲食店として、4月中旬を目途に開始します。開始の際には、ホームページに掲載するとともに、商工会議所様などのご協力もいただき、事業者の皆様にも周知いたします。
- あらゆるものの価格が高騰しており、市民の皆様のご生活も大変苦しい中、大変お待たせしていることと思います。一刻も早く、そして確実にお届けできるよう準備を進めてまいります。報道のみなさまにおかれましては、情報発信にご協力をお願いいたします。

2 屋内リンク3館における小学生以下の一般滑走料無料化について

- つぎに、屋内リンク3館における小学生以下の一般滑走料無料化について、ご報告いたします。
- 令和8年4月1日から令和9年3月31日までの1年間、「K K S 釧路厚生社アイスアリーナ」、「ユタカアイスアリーナくしろ」、「N i s s h o アイスアリーナ」の屋内リンク3館の小学生以下の一般滑走料が無料となります。
- この取り組みは、「株式会社 釧路厚生社」様からの寄附により実施するもので、子どもたちをはじめ、市民の皆様にもスケートに親しんでもらう事を目的としております。
- 多くの方の利用をお待ちしておりますので、ぜひご来場いただき、スケートを楽しんでもらいたいと思います。

3 リチウムイオン電池などの回収について

- つぎに、リチウムイオン電池などの回収につきまして、ご説明いたします。
- スマートフォンやモバイルバッテリーなど、リチウムイオン電池を使用した製品が広く普及するなか、使えなくなった電池の処分に困っている市民の方が増えております。
- 現在、一般社団法人 J B R C の回収制度がございますが、膨張・変形した電池や外国製品の電池はこの制度では回収できません。
- こうした電池が通常のごみとして排出されますと、ごみ収集車両や釧路広域連合清掃工場の火災事故につながる危険があり、その防止が喫緊の課題となっております。
- このたび釧路市では、独自の回収窓口を市内12か所に新たに設置いたします。
- 民間の協力店9店舗に加え、店舗のない阿寒町・阿寒湖畔・音別町の地区では、阿寒町行政センター、阿寒湖温泉支所、音別町行政センターの市の施設3か所を窓口としており、市民の皆さまには、各窓口まで電池をお持ち込みいただき、窓口の店員または市職員に直接手渡ししていただきます。なお、回収費用は無料です。
- 「捨て方がわからない」と自宅に保管したままになっている方も多いかと思いますので、ぜひご活用ください。
- 報道機関の皆さまにも広く市民へお伝えいただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

4 マリン・トポスクしろの開館時間短縮について

- つぎに、「マリン・トポスクしろ」の開館期間の短縮について、ご説明いたします。
- 本市の水産業に関する知識の普及を図ることを目的に設置している「マリン・トポスクしろ」につきまして、事務事業の見直しに伴い、今後の管理運営方法を検討いたしました結果、より効率的な施設運営を図るため、開館期間を短縮することといたしました。
- これまでの開館期間が5月から11月までのところ、月別の利用状況を分析し、来場者数が比較的少ない5月、6月、11月を新たに休館といたします。

- なお、休館期間中であっても、小・中学校の社会科見学など、事前にお申し込みいただいた団体につきましては随時開館いたしますので、引き続き積極的にご活用いただきたいと思いますと考えております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 物価高対策電子クーポンについて、2月議会において登録店舗数が1,500から2,000店舗となる発言があったが、店舗数の根拠を教えてください。

(商業労政課)

- ・ 過去に実施したプレミアム商品券の店舗数を参考にした店舗数となっております。

(質問)

- ・ 今回も同じ店舗数でできると見込んでいるという事でよろしいですか。

(商業労政課)

- ・ 募集はこれからさせていただくので、多少の増減はあるものと思っています。

(質問)

- ・ 駅高架と都心部まちづくりに関連して、一度否決されたのち、2月定例会で関連予算が可決されたことへの受け止めをお聞かせ願いたい。

(市長)

- ・ 釧路駅直近の高架下道路をL字から直線に変更することにつきましては、議会や市民に対し丁寧に説明をした上で、しっかりと意見を聞きながら、一定程度の理解を得られていると判断し、9月議会に補正予算案を提案いたしました。議論が不十分であるなどの意見があり、否決されたものと認識しております。

そのような議会の意見を真摯に受け止め、12月議会においては、直線化した場合の駅周辺の再整備方針イメージやL字案と直線案について、ここ約10年の物価上昇等を踏まえた、おおよその事業規模の比較を示すことで、議論を深めることができましたと考えています。

その上で、2月議会において、都心部まちづくりの関連予算を含めた、令和8年度当初予算案が可決されたことにつきましては、賛成していただいた各会派の議員のみなさんまた、市民の皆さんに心から感謝を申し上げます。

(質問)

- ・ 今後のスケジュールについて、お聞かせください。

(市長)

- ・ 令和8年度につきましては、釧路駅直近の高架下道路をL字から直線に変更することに伴い、「釧路都心部まちづくり計画」を見直すとともに、JR北海道による概算事業費の算出に必要となる、高架下道路の概略設計などを行います。

また、令和9年度以降につきましては、駅前広場などの概略設計や土地区画整理の調査検討などを行いながら、事業主体である北海道の公共事業事前評価に向けて、北海道やJR北海道などとの関係機関協議を数年かけて進めてまいります。

(質問)

- ・ 駅周辺に配置する公共施設について、どのような役割を期待するものを想定しているのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 釧路駅周辺に配置する公共公益施設については、にぎわいづくりの拠点とすることが重要であり、多くの市民が日常的に利用する、全市的な機能を有する施設を核として、都心部にふさわしい都市機能を集約・複合化することが望ましいと考えております。

(質問)

- ・ 新年度予算案が可決され、3月22日の「くしろ市民大学」において市民からの質問に対し、市長は「高架化ありきではない」と発言されました。あらためて発言の真意をお聞かせください、

(市長)

- ・ 鉄道高架は、鉄道を高架することが目的ではなくて、老朽化が進んでいる社会インフラの更新、都心部のにぎわい創出、公共交通の結節機能の強化による維持確保、コンパクトで持続可能なまちづくりなど、まちづくりの様々な課題を解決することが目的です。鉄道高架は、それ自体が目的ではなくて、まちづくりをすることが目的であるという意味で、「高架化ありきではない」と申し上げたものであり、釧路市のまちづくりを総合的に判断し、将来の釧路市にとって鉄道高架が必要であると考えております。

(質問)

- ・ ありきではないとの発言なので、高架化を断念し跨線橋の架け替えのみとの選択肢も可能性として残されているのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 鉄道高架のメリットも申し述べたうえで、総合的に判断してきたとお伝えしたつもりです。現時点では鉄道高架を進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 釧網線、花咲線が仮に廃止となった場合、前提条件が変わるので、考えが変わる可能性があるとの発言があったが、高架化の規格変更や市長の判断が変更となった場合、住民投票を実施する可能性はあるのでしょうか。

(市長)

- ・ 住民投票については非常に慎重に考えています。現時点ではあまり考えておりません。

(質問)

- ・ 3月末の釧路公立大事務組合議会での定款変更で、設置者が緑ヶ岡学園から釧路公立大に変更し、来春の釧路公立大の短期大学部開設に向けて一歩前進しました。早ければ8月にも学生募集を再開する見通しとお聞きしております。一方、公立化の判断に時間がかかり、短大の教職員の離職が進んでいることや、学生確保の難しさを指摘する声も聞こえてきます。公立化で管外からの学生が増える一方、地元就職率が低迷する恐れもはらんでいます。短大の学生募集や卒業生の流出を止めるため、市としてどのような取り組みを講じていくお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 釧路短期大学におきましては、もともと卒業生の地元への就職率が高くなっておりますので、引き続き、地元就職してもらえよう学校づくりを目指してまいります。

- ・ まずは令和9年度からの開校に向けた準備を最優先に進め、その後の4年制学部については、地域で活躍する人材の輩出、地域の活性化に資する学部として、どのようなあり方が良いのか、地域の関係者の方々としっかり議論してまいりたいと考えております。

(質問)

- ・ 昨年12月の議会で短大の公立化について、財源が厳しいと発言があり、短大を公立化するには管内町村の負担が前提条件で話をされていたと思うが、その方針を今回変更され、公立化に伴う赤字分を市が単独で負担することに決められたその真意をお聞きしたい。

(市長)

- ・ 昨年度になってから短大の話があり、市としても事務事業見直しに取り組み財源的に厳しい中でこれを捻出しなければならないことと、公立大については事務組合であり、その議会に諮るとなれば必ず町村が関係してくるが、市に所在する短大のことなので市が責任を持つべきと考えたところです。